

【事業実績】

(1) 学術的に適切かつ基準となる表現の翻訳の実施



(案内文ヒアリングの様子)

学術的にも適切であり、かつ、専門知識を必要としない平易な翻訳を実現するため、以下の3つの事業を実施することにより、有田焼に関する基準となる翻訳モデルの実現を目指した。

①翻訳検討会議の開催（オンライン）

日 程：令和2年（2020年）7月11日（土）

講 師：ニコル・クーリッジ・ルマニエール氏

（セイズバリー日本藝術研究所 研究担当所長）

内田ひろみ氏

（元大英博物館アジア部日本セクションプロジェクトマネージャー）

②案内文ヒアリングの開催（対面）

日 程：令和2年（2020年）12月22日（火）

：令和3年（2021年）2月10日（水）

講 師：モレ・ハネカ・エリザベス氏、ジェレミー・パレ・ジュリアン氏（有田町在住陶芸家）

秋山佐恵子氏（旅行会社勤務、通訳案内士）

③翻訳検討会議及び案内文ヒアリング講師による翻訳資料の監修

翻訳会社が翻訳した英訳に関し、学術的に適切な表現となっているか、外国人にとっても読みやすい表現となっているか等の視点で、翻訳検討会議及び案内文ヒアリング講師に、会議等の場だけでなくメール等の手段を用いて指導・助言を受けた。

(2) 案内ツールの作成

(1) で作成した翻訳モデルを活用し、以下の案内ツールを作成した。

① 柴田夫妻コレクションのキャプション・パネル・タペストリ

②有田町ガイドブック

③有田町散策マップ

④有田観光協会ホームページ

※URL：<https://www.arita.jp/>

(②有田町ガイドブック)



(3) 案内ツールの設置

(2) で作成した案内ツールは、九州陶磁文化館内ほか、有田町の主要な施設に設置し、配布している。

(設置箇所の例)

有田駅、観光案内所（Kiln Arita、有田館）、有田観光協会 など



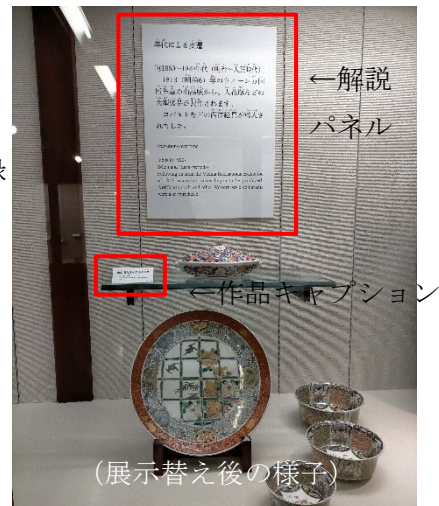
(有田駅内に設置の様子)

(4) 柴田夫妻コレクション展示替え

(2) で作成した案内ツールのうち、約 99%が江戸時代の有田焼で構成される「柴田夫妻コレクション」(国の登録有形財指定)の全てについて、統一した翻訳モデルを活用し、作品キャプション 4,382 枚、解説パネル 30 種類 32 枚が完成した。

寄贈の時期や翻訳者により翻訳表記が揃っていない状況が改善され、より分かり易い適切な解説文となった。

また、陶磁用語、人名等の表記については、ガイドブック・マップ等の表記にも活用できた。



(5) 事業効果の検証

当事業の効果を検証するため、案内ツールの見直しを行った九州陶磁文化館へ案内文ヒアリングの講師 2 名を招聘し、案内したところ、次のような意見が聞かれた。

検証実施日：令和 3 年(2021 年) 3 月 29 日(月)

- 以前の解説パネルの英語表記は、読んでいて不自然だったり読みにくい箇所があったが、今回の英訳は専門家の監修を受けていることもあり、用語が統一され読みやすく、大型のパネルとなり理解しやすい解説パネルに改善されていた。
- 以前は、作品キャプションの大きさや文字の書体、大きさなど細かい点が不揃いで統一感がなかったが、今回、全般的に更新されたことで展示物として統一感が出たように思う。
- 今回作成した解説パネルのほかにも、例えば出土地点についてまとめた補助パネル(地図等)についても多言語化されれば、より外国人観光客の関心と理解が深まると思う。



(6) 総括

佐賀県及び有田町では有田焼を観光資源として活用するため、様々な機関で多言語化に力を入れて取り組んでいたが、陶磁器や歴史解説に学術的な専門用語が多数必要であることや、翻訳者によって翻訳表現が異なっていることにより、外国人観光客に正確に伝わりにくいなど、現場の観光施設等で混乱を来していたが、当事業により、学術的にも適切で、かつ、基準となる翻訳モデルが完成した。

多言語対応のパンフレットを作成予定である域内の博物館施設から、事業を実施している作業中には、翻訳モデルについて問い合わせがあるなど、事業の効果を感じたところである。

事業の成果である翻訳モデルを中核館である九州陶磁文化館のホームページで公開した(<https://saga-museum.jp/ceramic/news/2021/03/003580.html>)ところ、この成果物は英訳の参照に役立つという声が聞かれた。

今後、同様に、域内の各機関で作成される案内冊子や展示解説パネル等に関しては、当翻訳モデルを積極的に活用していただくように推奨し、有田町全域のホスピタリティ向上につなげていく。